

科目名	地域・在宅看護論実習Ⅱ (地域の暮らしを支えるマネジメント)	単位数	1	時間数	45	開講時期	3 学年・通年	担当	専任教員 (看護師)
目的	地域包括ケアシステムにおける多職種の連携と看護の役割を知り、地域の人々への支援の実践を学ぶ。								
目標	1. 対象者への意思決定の支援について考察できる。 2. 退院支援・在宅療養移行支援の方法が理解できる。 3. 地域包括支援センター・居宅介護支援事業所の支援の実践が理解できる。 4. 地域他機関や多職種の役割およびそれらとの連携、調整方法が理解できる。 5. 地域包括ケアシステムの機能について理解し、看護の役割を考察できる。								
授業計画・内容	<p>a. 患者支援センター（退院支援部門）</p> 1. 実習期間：9 時間×2 日間=18 時間 2. 実習施設：済生会滋賀県病院 患者支援センター 3. 実習方法 1) 入退院センターの看護師と行動を共にし、退院支援場面を通し、退院支援プロセスを考える。 2) 退院支援場面より、多職種連携および関係職種の役割を知る。 <p>b. 地域包括支援センター</p> 1. 実習期間：8 時間×2 日間=16 時間 2. 実習施設：栗東市（葉山・栗東・栗東西）地域包括支援センター 3. 実習方法 1) 担当地域の特徴を学習する。 2) スタッフと行動を共にし、相談・調整・訪問活動などの実践を知る。 3) 地域包括支援センターの機能と役割を考える。 <p>c. 居宅介護支援事業所</p> 1. 実習期間：8 時間×1 日間=8 時間 2. 実習施設：済生会居宅介護支援事業所栗東 3. 実習方法 1) 介護支援専門員と行動を共にし、利用者・家族との関わりや支援の実践を知る。 2) 多職種との連携場面を見学し、ケアマネジメントの実践を知る。 <p>d. まとめ</p> 1. 実習期間：3 時間 2. 実習施設：学内 3. 実習方法 1) 臨地での学びを共有し、対象者が地域で生活するためのケアシステム・社会資源および関係機関・職種の連携のあり方について考察する。 2) 実習後にレポートにまとめ、学びを整理する。 ① 地域包括ケアシステムでの看護の役割 ② 退院支援の実践								

詳細は実習要項参照

科目名	周手術期看護実習	単位数	1	時間数	45	開講時期	3 学年	担当	専任教員 (看護師)
目的	周手術期にある対象者の特徴を理解し、生命維持、苦痛の緩和とその状況に即した看護の実践を学ぶ。								
目標	1. 手術に関わる基礎的知識と援助内容について理解できる。 2. 周手術期において予測される合併症や苦痛を判断し、予防および緩和への援助ができる。								
授業計画・内容	1. 実習期間：5 日間 2. 実習施設：済生会滋賀県病院（9 西病棟、手術室） 3. 受け持ちの対象：手術を受ける患者を 1 名受け持つ。 4. 実習方法 <ul style="list-style-type: none"> 1) 受け持ち患者の看護を展開する。 2) クリティカルパスや病棟の術前後の指導手順を参考にし、看護計画を立案する。 3) 計画に基づいて看護師とともに援助を実施し、評価を行う。 4) 手術前後の観察、処置は看護師とともに実施する。 5) 受け持ち患者の手術を見学する。 6) 状況に応じて、手術を受けた他患者の援助を見学・実施する。 7) 共有学習や問題解決に向けた討議を行う。 								

詳細は実習要項参照

科目名	統合実習	単位数	2	時間数	90	開講時期	3 学年・後期	担当	専任教員 (看護師)
目的	看護チームの機能と役割遂行・看護管理について既習の知識を統合し、チームの一員として求められる看護実践力を習得する。								
目標	1. 受け持ち患者の問題をとらえ、必要な援助を看護チームおよび多職種と連携して実施できる。 2. 複数の患者を受け持ち、必要な援助の優先順位を考えて実施できる。 3. 夜勤帯における看護業務、患者の安全、患者の状況について理解できる。 4. チームの一員としての役割を認識し、主体的に責任ある行動がとれる。								
授業計画・内容	1. 実習期間：10 日間 病棟：9 日間（10 時間×8 日＋半日 5 時間＝85 時間）、学内：1 日（5 時間） 2. 実習場所：済生会滋賀県病院（6 西、7 東、7 西、8 東、8 西、9 東、9 西病棟） 3. 実習方法 1) 専門職業人として働く上での自己の課題を踏まえ、上記の 7 つの病棟から実習する希望病棟を選択する。 2) 実習病棟が決定したら、実習に必要な事前学習を行う。 3) 病棟オリエンテーション オリエンテーションは、学生からの質問形式で行う。 病院の方針に応じた病棟管理については看護課長に対応してもらう。 4) 2 日目以降、受け持ち患者を 1 名決め、チームの看護師と共に看護実践を行う。 5) 4 日目以降、もう一人受け持ち患者を追加し、複数患者の看護実践を行う。 (1) 1 人目の患者は、指導者より簡単な情報を提供してもらい、患者の問題と必要な援助を理解する。 (2) 2 人目の患者を、2 日目に提供してもらい、自分で情報収集を行う。 (3) 3 日目以降、チームの看護師と行動調整して、複数患者の援助を実施する。（必要時、一緒に） (4) 受け持ち患者に関する報告・相談は、受け持ち看護師に行う。 リーダーへの報告は、受け持ち看護師と相談して行う。 受け持ち患者に行われている診療補助技術についても、看護師の指導下で実施する。 （服薬管理、点滴注射の準備、経管栄養の準備と管理など） 6) チームカンファレンスに参加する。 (1) 受け持ち患者に必要な支援をアセスメントし、看護チームに発信する。 (2) 多職種から、患者に必要な支援について情報を得る。 7) 受け持ち患者への看護援助以外に経験可能な看護援助があれば、指導者に相談し実施する。 8) 実習期間中に 1 日の夜勤帯の看護業務を見学する。 夜間の安全管理、夜勤帯の処置や援助、業務間の引継ぎ、看護師・多職種との連携、 夜勤帯の患者の状況、緊急時の対応 夜勤帯実習は 12:30～21:00 で、翌日は午後のみ（13:00～16:45）の実習とする。 9) 各病棟での学びをまとめ、全体で共有する。 10) 実習を通しての学びをレポートにまとめる。								

詳細は実習要項参照